

# PROGRAM

## ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.61 \*ピアノ協奏曲版(約45分)★

Ludwig van Beethoven : Violin Concerto in D major, op.61 arranged for Piano Concerto

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロツポ *Allegro ma non troppo*

第2楽章 ラルゲット *Larghetto*

第3楽章 ロンド *Rondo*

— 休憩 (20分) — *Intermission*

## フォーレ:レクイエム op.48 (約40分)

Gabriel Fauré: Requiem, op.48

第1曲 イントロイトゥスとキリエ (合唱) *Introit et Kyrie (Chorus)*

第2曲 オッフエルトリウム (バリトン、合唱) *Offertoire (Baritone, Chorus)*

第3曲 サンクトゥス (合唱) *Sanctus (Chorus)*

第4曲 ピエ・イエズス (ソプラノ) *Pie Jesu (Soprano)*

第5曲 アニウス・デイ (合唱) *Agnus Dei (Chorus)*

第6曲 リベラ・メ (バリトン、合唱) *Libera me (Baritone, Chorus)*

第7曲 イン・パラディスム (合唱) *In Paradisum (Chorus)*

指揮・芸術監督: 佐渡 裕 *Yutaka Sado, Conductor & Artistic Director*

ピ ア ノ: 菊池 洋子 *Yoko Kikuchi, Piano (★演奏曲)*

ソ プ ラ ノ: 幸田 浩子 *Hiroko Kouda, Soprano*

バ リ ト ン: キュウ・ウオン・ハン *Kyu Won Han, Baritone*

合 唱 指 揮: 本山 秀毅 *Hideki Motoyama, Chorusmaster*

合 唱: オープニング記念第9合唱団 *Opening Beethoven 9th Commemorative Chorus*

管 弦 楽: 兵庫芸術文化センター管弦楽団 *Hyogo Performing Arts Center Orchestra*

字幕: 藤野 明子 *Akiko Fujino, Subtitles*

2020 1/17(金) 7:46PM開演・18(土)・19(日) 3:00PM開演

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

主催: 兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

※演奏時間は目安となります。前後する可能性がありますので予めご了承ください。

文化庁文化芸術振興費補助金  
(舞台芸術創造活動活性化事業)  
助成: 独立行政法人 日本芸術文化振興会



これさえ  
見れば  
わかる!

## 今回の聴きどころ

東条 碩夫(音楽評論)

### 追悼のために、そして鼓舞のために

あの阪神・淡路大震災から早くも25年が経つ。今月のPAC定期演奏会は、その犠牲になった方々へ祈りを捧げるための作品——フランスの作曲家フォーレの「レクイエム」を中心コンセプトとしてプログラムが組まれている。これは、あらゆる「レクイエム」の中でも、最も優しい、最も美しい作品だ。その中には、「ピエ・イエズス」など、単独で親しまれている曲も少なくない。

この祈りの曲とともに、青年時代に聴力を失うという悲劇に見舞われながらも「運命ののど首をつかんでやる」と宣言し、「苦悩を克復して歓喜へ」を生涯のモットーとして無数の名作を世に送り出し、勝利を収めたベートーヴェンの作品を聴く。「あらゆるヴァイオリン協奏曲の王者」として有名なあの曲を、彼自身がピアノ協奏曲に編曲したものだ。珍しい版だが、その音楽の気宇の壮大さは、多くの聴き手の心を打つはずである。

## 必聴POINT

ライター  
おすすめ!!



ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.61 ※ピアノ協奏曲版

### 《ヴァイオリンのパートがピアノで演奏される!》

「ヴァイオリン協奏曲の王者」と讃えられる有名な作品が、なんとピアノ協奏曲に変身しての登場。ヴァイオリン版を聴き慣れた人には勝手が違うかもしれないが、それなりの面白さがある。特に第1楽章の終り近くにあるカデンツァで、ピアノとティンパニが応酬するという前代未聞の手法が採られるのも聴きものだ。

フォーレ:レクイエム op.48

### 《数ある「レクイエム」の中で最も叙情的で美しい曲》

フォーレは、「神」という言葉は広い意味での「愛」という言葉に含まれる、と語った。この曲はまさにそのコンセプトに相応しい優しさに溢れている。女声合唱の旋律が夢幻的に美しい第3曲「サンクトゥス」と、ソプラノ・ソロが心を込めて歌う第4曲「ピエ・イエズス」、棺を送る時に歌われる優しい祈りの第7曲「イン・パラディスム」は、特に有名である。

# PROGRAM NOTE

曲目解説 —  
演奏をより深く楽しむために  
東条 碩夫(音楽評論)



## ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.61 (ピアノ協奏曲版)

初演:ヴァイオリン協奏曲版 1806年12月23日 ウィーン  
ピアノ協奏曲版 不詳

### ベートーヴェン唯一のヴァイオリン協奏曲

ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲は、完成されたものとしてはこれ1曲しかない。だがそれは、同種の作品ジャンルの中の、史上最高傑作の一つである。1806年(36歳)の作曲で、折しも彼は「傑作の森」と呼ばれる充実の創作期のまっただ中にいた。初演のソリストは、ウィーンのア・デア劇場のヴァイオリン奏者フランツ・クレメント(1780~1842)。ベートーヴェンのいつもの例で、完成は初演日ぎりぎりになり、クレメントは初見(ぶつつけ本番)で演奏せざるを得なかったと伝えられている。

### 翌年春、自らピアノ協奏曲版に編曲

この編曲は、ムツィオ・クレメンティ(1752~1832)という、ピアニストであり、楽譜出版業者でもある人物からの依頼によるものだった。編曲にあたっては、楽曲全体の構築は一切変えず、またヴァイオリン演奏用の音符をそのままピアノ用に変えた部分もあったが、多くの個所でピアノの特徴を生かした和声構成を付け加え、ピアノ協奏曲としての華麗さを出すようにした。

だが最大の変更は、第1楽章の終り近くにあるカデンツァを新しく作曲したことにある。この場合



作曲家プロフィール ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)  
*Ludwig van Beethoven*

ドイツのボンに生れた史上最高の作曲家のひとり。若い頃はピアノの名手としても知られ、その演奏は「強靱な意志に満ち、聴く者の心を揺り動かす」と評された。ヴァイオリン協奏曲1曲に対しピアノ協奏曲は5曲、ヴァイオリン・ソナタ10曲に対しピアノ・ソナタは32曲(いずれも完成作のみ)という作品数に、その嗜好が反映されているとも見られよう。なお今年2020年は彼の生誕250年記念の年にあたり、多くの記念行事が行われる。

の「カデンツァ」とは、協奏曲の中で、ソリストが自らの腕前を誇示すべく、アドリブで自由な演奏を披露してよい個所である。卓越したピアニストだったベートーヴェンは、「第1番」から「第4番」までに至るピアノ協奏曲では、「おれが書いておく」とばかりに、自分でカデンツァを作曲していた<sup>(注)</sup>が、ヴァイオリン協奏曲ではさすがに自信がなかったのか、カデンツァ部分は人任せにしていた。しかし、いざこれをピアノ協奏曲版に編曲することになると、たちまち大ピアニストとしての本性を現わし、自分で新たに作曲してしまったのである。

それはしかし、ピアノとティンパニを対話させるという、実に珍しい手法を使っていて、当時としては極度に前衛的なスタイルであった。このピアノ協奏曲編曲版における最大の聴きどころは、このカデンツァの個所にあると言ってもいいほどであろう。今日のソリスト、菊池洋子さんも、この曲に魅力を感じる理由の一つとして、そのカデンツァでピアノ・ソロがティンパニとダイナミックに対決する「かっこ良さ」を挙げている。

曲は、アレグロながらゆったりした壮大な印象を与える第1楽章、夢幻的な美しさの第2楽章から切れ目なしに入る躍動的な第3楽章——という3つの楽章からなる。特に第1楽章では、冒頭でティンパニがたたきはじめる4分音符のリズムが特徴的で、これがこの楽章全体を支配する重要なモチーフになる。

(注) ピアノ協奏曲第5番「皇帝」では、ベートーヴェン自身が「カデンツァを入れずに先へ進め」と楽譜に記入している。曲の流れを重視したのであろう。

#### 楽器編成

独奏ピアノ、フルート、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部

### フォーレ:レクイエム op.48

初演:初稿版 1888年1月16日 パリ  
現行版 1892年1月28日 パリ

### 今日演奏されるのは現行版、つまり所謂「第3版」

「レクイエム」とは「安息」を意味し、「死者のためのミサ曲」とも訳される。祝典的なミサ曲とは違い、「グローリア」などの明るい曲は含まれない。典礼文には数多くの「項目」があるが、どれを選ぶかは、作曲家によりさまざまである。

フォーレは、1885年7月25日に父を、1887年12月31日に母を喪った。この「レクイエム」が着手されたのは1887年の後半のことだが、彼は「特定の人物や事柄を意識して書いたのではない」と述べている。初版はフォーレ自身の指揮により1888年にマドレーヌ寺院で初演されたが、

この時は5曲からなる版で、現行版の第2曲(オッフエルトリウム)と第6曲(リペラ・メ)にあたるものは未だ書かれておらず、管弦楽編成も小規模なものだった。その後フォーレは2曲を書き加え、1892年にサン＝ジェルヴェ教会で指揮して公開初演、楽器編成もトロンボーンを加えて少し大きいものにした。そして1901年9月に刊行されたフル・スコアでは、オーケストラ編成はさらに拡大され、現行版と同じものになったのである。ただ、最近の研究によれば、この管弦楽編成の拡大の過程には、フォーレ以外の人の手が加わっているのではないとも言われている。

## 気品と落ち着きと清澄さに満ちた曲想

全曲の曲調は極めて穏やかだ。フォーレは、劇的な要素の濃い「怒りの日」や「涙の日」など最後の審判を描く典礼文には作曲していない。

**第1曲** 「レクイエム・エテルナム」(永遠の安息を)と歌い出される。亡くなった人の安息を祈る「入祭唱」と、神に憐れみを求める祈り「キリエ」。心に染み入る敬虔な音楽。

**第2曲** 「オッフエルトリウム」(奉献唱) 神にパンと葡萄酒を捧げる祈りで歌われる。

**第3曲** 「サンクトゥス」(聖なるかな) 神を賛美する歌。

**第4曲** 「ピエ・イエズス」(慈悲深きイエス) ポーイ・ソプラノで歌われることもある。

**第5曲** 「アニュス・デイ」(神の子羊) 神の子羊たるキリストに祈る歌。

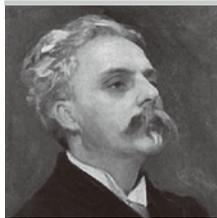
**第6曲** 「リペラ・メ」(我を解き放ち給え) 亡くなった人の魂が許されることを祈る。フォーレはバリトン・ソロに、「劇的な歌い方をしてはならない」と指示している。

**第7曲** 「イン・パラディスム」(天国へ) 棺が墓地に運ばれる時に歌われる。

※ 解説中の訳の表記は、対訳と一部異なります

### 楽器編成

ソプラノ独唱、バリトン独唱、混声四部合唱、フルート2、クラリネット2、バスーン2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン、ティンパニ、ハープ、オルガン、弦楽5部



### 作曲家プロフィール ガブリエル・フォーレ (1845-1924)

*Gabriel Fauré*

バミエに生れ、パリで世を去ったフランス最高の作曲家のひとり。ドビュッシーより17歳年長。10歳年上のサン＝サーンスからは教育面、活動面で多くの助力を受けた。有名な劇音楽「ベレアスとメリザンド」ほか多くの叙情的な室内楽、独奏曲、声楽曲などを書いたが、普仏戦争(1870年)に従軍したり、パリ音楽院長時代(1905~1920年)に強引な教育改革を推し進めたりするような性格も持っていた。柔らかい上品な声で話す魅力的な人物だったと伝えられる。

## フォーレ:レクイエム

対訳：小宮 正安(ヨーロッパ文化研究家 / 横浜国立大学教授)

### I. *Introit et Kyrie*

*Requiem aeternam dona eis Domine:  
et lux perpetua luceat eis.*

*Te decet hymnus Deus in Sion,  
et tibi reddetur votum in Jerusalem:*

*exaudi orationem meam,  
ad te omnis caro veniet.*

*Kyrie eleison.  
Christe eleison.*

### II. *Offertoire*

*O Domine Jesu Christe, Rex gloriae,  
libera animas defunctorum  
de poenis inferni, et de profundo lacu,  
de ore leonis,  
ne absorbeat tartarus,  
ne cadant in obscurum.  
Hostias et preces tibi Domine laudis offerimus:  
tu suscipe pro animabus illis,  
quarum hodie memoriam facimus:  
fac eas, Domine, de morte transire ad vitam,  
quam olim Abrahae promisisti et semini ejus.  
Amen.*

### 1. *始まりの祈り - 憐みの祈り*

永遠の安らぎを与えてください 神よ  
永遠の光を 彼らに注いでください。

聖なる地で讃えられるにふさわしいのは 神よ  
あなただけ  
あなたへの誓いが 聖なる都で果たされますように...

そんな祈りを 聞き入れてください  
儚い身体 私たちは 御許へ行く定めなのですから。

神よ 憐れんでください。  
キリストよ 憐れんでください。

### 2. *捧げる祈り*

主なるイエスよ あなたは栄光の王。  
解き放ってください 死者の魂すべてを  
地獄の罰と深い淵の底から。  
解き放ってください 死者を獐猛な獅子の牙から。  
彼らが地獄で滅びることがありませんように  
闇の中へ陥ることがありませんように。  
犠牲の祈りと賛美の祈りを 神よ あなたに捧げます。  
どうかこの祈りを受け取ってください  
今日この日 私たちが思い出す人々のために。  
そして神よ 彼らを死から救い出し 生命の希望を  
お与えください。  
あなたはそう約束してくださいました アブラハム  
とその子孫たちに。  
アーメン。

### III. Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus  
 Dominus Deus Sabaoth.  
 Pleni sunt coeli et terra gloria tua.  
 Hosanna in excelsis.

### IV. Pie Jesu

Pie Jesu Domine,  
 dona eis requiem,  
 sempiternam requiem.

### V. Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:  
 dona eis requiem - sempiternam.  
 Lux aeterna luceat eis Domine:  
 Cum sanctis tuis in aeternum,  
 quia pius es.  
 Requiem aeternam dona eis Domine,  
 et lux perpetua luceat eis.

### 3. 感謝の祈り

感謝します 感謝します 感謝します...  
 神よ 全てを支配されている神よ。  
 天国もこの世も あなたの栄光に満たされています。  
 何と素晴らしい あなたの住まれる高みは。

### 4. 慈悲深いイエス様

慈悲深い主なるイエスよ  
 与えてください 彼らに安息を。  
 いつまでも続く安息を。

### 5. 神の子羊

神の子羊よ あなたは世の罪を取り除かれるお方  
 どうか彼らに安らぎを与えてください 永遠に。  
 永遠の 彼らに注いでください。  
 聖なる人々とともに 永遠の憩を与えてください  
 あなたは慈悲深い方なのでから。  
 永遠の安らぎを与えてください 神よ  
 永遠の光を 彼らに注いでください。

### VI. Libera me

Libera me, Domine, de morte aeterna,  
 in die illa tremenda:  
 Quando coeli movendi sunt et terra:  
 Dum veneris judicare saeculum per ignem.  
 Tremens factus sum ego, et timeo,  
 dum discussio venerit, atque ventura ira.  
 Dies illa, Dies irae,  
 calamitatis et miseriae,  
 dies magna et amara valde.

Requiem aeternam dona eis Domine:  
 et lux perpetua luceat eis.

Libera me, Domine, de morte aeterna.  
 in die illa tremenda:  
 Quando coeli movendi sunt et terra:  
 Dum veneris judicare saeculum per ignem.

### VII. In Paradisum

In paradisum deducant te Angeli:  
 in tuo adventu suscipiant te Martyres,  
 et perducant te in civitatem sanctam Jerusalem.  
 Chorus angelorum te suscipiat,  
 et cum Lazaro quondam paupere  
 aeternam habeas requiem.

### 6. 私を解き放ってください

私を解き放って下さい 神よ どうか永遠の死から  
 たとえ あの恐ろしい日が来ても。  
 その時 天は動き 地も動き  
 あなたが到来し 業火の中でこの世を裁かれます。  
 私は震え 恐れることしかできません。  
 すべてが揺れ動き あなたの怒りが続きます。  
 その日こそが怒りの日  
 災いと不幸が押し寄せる  
 恐ろしいまでに長く辛い日。

永遠の安らぎを与えてください 神よ  
 永遠の光を 彼らに注いでください。

私を解き放って下さい 神よ どうか永遠の死から。  
 たとえ あの恐ろしい日が来ても。  
 その時 天は動き 地も動き  
 あなたが到来し 業火の中でこの世を裁かれます。

### 7. 楽園へ

楽園へ 天使たちが導いてくれますように。  
 そこへ着いたとき 死せる者を殉教者たちが迎え入れ  
 聖なる都エルサレムへと 招き入れてくれますように。  
 天使たちの合唱が 死せる者を迎え入れてくれます  
 ように  
 この世で苦しんだラザロもともに  
 永遠の安らぎを いつまでも与えてくれますように。